

冷え込みが厳しい日が続いています。今年は雪が早いかなと思っていましたが、予想外になっており、2学期中には、雪遊びやソリ、クロカンはできなさそうです。残念です。

大地の雪景色は素晴らしいです。特に、文庫からの眺め、そして、昨年、クロカンでよく訪れた（親子や大人達も）北信五岳がよく見える林檎畑の丘。大地の裏山を抜けて、田んぼを歩いて行くクロカンコース。人家も何もなく、真っ白な平原を、針葉樹をバックに歩く光景は、まさにヨーロッパの冬景色です。

原油高や光熱費などの影響で、スキー場のリフト代も高騰しているということです。やはり人工的な事で自然を楽しむ事には、それ相当の出費は、仕方無いですね。こんな時こそ、原点回避、自分の力だけで自然と対峙できる、ソリやクロカンは最適です。特に、クロカン（歩くスキー）は、技術関係なく、子どもと一緒に冬のハイキングや散歩を、いつでもどこでも気軽に（自然との味わいでは奥は深い！！）楽しめます。誰も居ない雪野原を独り占めできます。スノーシューでも面白いですが、スキーはそこにスリルとスピード感と遊びが更に加わります。そして、健康のためにも最適です。ぜひ、こんな機会に歩くスキーを家族で友人達と楽しんで見ませんか。空前のキャンプブームですが、歩くスキーも同じように装備が共有できるので、スキーさえ揃えれば、同じ世界が楽しめます。

そんな世界を大地では、子ども達と、大地の丘で連日楽しめる冬。暖冬化で、年々雪が少なくなりますが、それも人間の身勝手さが招いていること。子ども達の未来の幸せな雪遊びの保証のためにも、エネルギー、電気、ガス、原油等の依存の暮らしを、見直していかねばなりません。

いよいよ冬休み。生活に影響のない程度に、山に雪、里に雪景色という雪の世界が訪れま



【なぜ勉強するの？】

一週間前位の新聞に、上田市の侍学園の理事長の長岡さんの記事がありました。子ども達から「なぜ、勉強をするの？」と聞かれたら、どう答えますかという質問にたいしてです。

長岡さんは確かこう答えていました。「勉強していろいろ知っていれば得をすることが多く、知らないと損をする事が多い、だから知っていたほうが良い」と。

これは、確かに、すっきりとわかりやすい事だと感じました。人生を探究するとか自分を高めるためなどと言われるよりも、とても理解しやすいし、生活の中で実感できることです。

得をすると言うとお金の事が真っ先にイメージされます。確かに、株や投資などの金融知識があると無い（勉強するとしないとは）とは、損得がちがいます。目的地向かうことでも、近道を知っている知らないとは、違います。学ぶ学ばない勉強するしないとは、こう言った違いがあります。これは本当に実感できます。生活暮らし生きていく上での確かさ現実との接点が感じられるからでしょう。

更に、そこには、自己を高めながら、更に得をしよう得を高めようという高揚感が加わります。人によっては、お金を儲けるという得、自分の技術を高めようという得、真理を見極めようという得、人のために役立てよう助けよう貢献しようという得、様々な事があります。これがまさに、その人自身が勉強しようという動機でしょう。

現実の学校教育では、勉強が生活や暮らしと結びついていないのが残念なところ。良い学歴通信簿進学就職などと結びつき、そのための勉強（良い会社に就職すれば得だと言うことも一利あります）があるのも理解できます。そのために勉強するのも、立派な勉強の意味ある目的です。ただ、これが、幼児や小学生など心の柔らかい子ども達には、日々の生活暮らしの中で、どうなのかという点です。特に、幼児や小学生低学年は、遊びが仕事であり、毎日の暮らしが遊びです。その中で、知っていることが得する知っている事が、遊びを高める魅力ある事につながると思っています。そのための勉強こそが、大切で有り重要です。その勉強は、知識ではなく、実践を通じた認識だと思えます。蛙にへそがあるかどうかは、図鑑で知るだけでなく、田んぼへ走って行って、泥だらけになって捕まえて見て知る事です。知ったこと（図鑑）は、実際に動いて実践して本当の認識になるのではないのでしょうか。

この過程が、子ども達の勉強ですね。大人も同じです。生活に暮らしに必要なとなったら勉強します。車や家を購入する時も、カタログで勉強して、実際にモデルハウスを見て、本なども買ってそのために勉強します。後で、もうちょっと調べておけば良かった知らなかった！！と後悔したこともたくさんあるでしょう。まさに、ここに勉強の原点があるように思えます。

貧しさから脱却する為に、学問を身につけてきたという偉人の話や伝記を目にすることがあります。これも、いろいろ知っていれば、たくさんの人達に頼られ、あてにされ、感謝され、お金というファンレターをたくさん頂けるからでしょう。

しかしながら、高度成長期を終え、人口減少豊かさの見直し地球温暖化精神的不安定の人達の増加ストレス社会エネルギー問題などの時代においては、これからはミニマムなコミュニティ、暮らしに転換されていくのではないのでしょうか。輸入に頼らない、最低限自給できる暮らし、エネルギーもできるだけ自然エネルギーに依存できる暮らし、皆でシェアしながら、最低限の持ち物での暮らし、そして、助けあい、良い意味で依存し合う暮らしを、ミニマム社会で維持していくこと。そのための勉強こそ、本当にそんな社会で得する（豊かになる）事につながるのだと思えます。

自分の暮らしを自分でできるだけ維持するための勉強。例えば暮らしの基本の場所となる家。この家作りにしても、莫大なお金がかかります。ローンの設定、設計施工登記その後の維持管理。何も知らなければ、全て人任せで住宅会社の言うとおり。でも、自分で、様々な勉強をしておけば、もちろんお金も浮きますが、それ以上に、セミプロ並みの技術ノウハウが、自分の宝になります。そして、人にアドバイスをすることもできる。皆喜んでくれる。自分も楽しい。そこで、更に勉強して、喜びや面白みを楽しみたい。そんな、サイクルの中で、勉強できれば最高です。

子ども達にも、そんな実践と生活感が伴う勉強の機会を小さい頃から与えてあげたいです。それが、教科書やパソコンや言葉や机上だけでは、青ちゃんが子どもだったら、魅力的ではありません。実際に、動いて実践している大人と共に、得をしている現場現状を見ながら、楽しんでいる人達と学び勉強をしていきたいと願います。

「トイレはするものではなく造る物なのですね」先日の子長児保護者のトイレ作りの実践的言葉です

自分自身も小さい頃なんて将来の夢なんてなかったし大きな目標もありませんでした。将来を考えるなんて、(今